

特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会

第6回通常総会議案書

開催日時：2009年6月6日（土）13:00～14:30

開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 311号室
（東京都渋谷区代々木神園町3番1号）

開 会

定数確認

代表挨拶

議長選任

議事録署名人選任

議 案

<決議事項>

第1号議案 2008年度事業報告および決算報告

<報告事項>

第2号議案 2009年度協会ミッションと新体制について

第3号議案 2009年度事業計画および予算

議長解任

閉 会



遊び あふれる まちへ！
日本冒険遊び場づくり協会

第1号議案 2008年度事業報告および決算報告

決議事項

2008年度事業報告および決算報告について、資料1、資料2の通り承認する。

事業報告は、各担当理事からの報告を取りまとめた資料1「2008年度事業報告書」をご参照ください。決算報告は、事務局が取りまとめた資料2「2008年度収支計算書」を参照して下さい。



2008 年度事業報告

資料 1

【2008 年度事業のまとめ】

日本冒険遊び場づくり協会は、「遊び あふれる まちへ！—地域で子どもたちが自由に遊び育つ豊かな社会の実現」をミッションに掲げ活動を展開しています。

これらのミッションの実現に向け、1. 遊び観・子ども観を世に問いかける 2. 冒険遊び場づくりの魅力をアピールする 3. 活動の展開ノウハウを開発する の3点を活動の指針としています。

2008 年度は、次の3つの重点項目により、8つのプロジェクトに取り組んできました。次ページ以降に各プロジェクトの概要と成果を報告します。

〈2008 年度事業重点項目〉

A. 冒険遊び場づくりに取り組む価値と魅力の発信

これまで協会が培ってきた遊び観・子ども観に基づいた冒険遊び場づくりに取り組む価値と魅力を社会に発信し展開していくために、本年度は乳幼児の親に向けた広報活動に取り組む。

B. 遊びに関わる大人の育成プログラムの検討

冒険遊び場づくりにおいて基礎となる「遊びに関わる大人のあり方」について整理し、他分野（学童保育活動、児童館職員等）への波及や連携を視野に入れ、育成プログラムを検討確立していく。

C. 国への政策提言に向けた研究

乳幼児から思春期を見通した子育て・子育て実践の場としての冒険遊び場づくり活動について研究を深め、「次世代育成支援行動計画」の後期計画（平成22年度から5年間）策定に焦点を当てて戦略的に提言していく。

8つのプロジェクト以外では、子育て支援拠点事業のなかに屋外型を意識した基準をつくるための検討を、NPO 法人プレーパークせたがやと連携して国土交通省と厚生労働省を訪問し提案しました（2008年11月）。その結果、両省を交えての研究会議を設けるという展望を得ることができました。屋外型地域子育て支援拠点が実現すれば、全国に広がる冒険遊び場における取り組みがこれに適用されると期待されます。

また、協会のはじめての試みとして「無料講師派遣による冒険遊び場づくり応援事業」を団体正会員である全国の冒険遊び場づくり活動団体との協働事業として取り組みました。詳しくはプロジェクト08として後述します。

協会の財政基盤の強化については、理事を中心に検討が重ねられ、改めて会員のみなさんと共に思いを形にしていく団体として活動を進めていくようにし、購読会員の廃止と正会員の会費値上げの改定を行いました。



01 冒険遊び場づくりをめぐる対話集 <普及啓発><調査計画> A

■事業目的

ゲストとの「対話」の中から、協会活動への関わりの基礎となる「冒険遊び場づくり観」を改めて浮き彫りにし、さらに冒険遊び場づくりとさまざまな分野との関わりについて研究することで、『遊びあふれるまちへ！』を目指す協会活動の広がりを考える。

■実施体制

担当理事（古賀）、会員（加藤寛子、谷居早智世、渡辺龍彦）によるプロジェクトチームで企画・運営・記録・N遊Sでの報告作成を行った。

実施にあたっては古賀がホスト（聞き手）を務め、協会理事をゲスト（語り手）として対話を行った。

■活動概要と成果

のぞわテットーひろば内の協会事務所でゲストの理事を囲み、ホストがゲストの来歴や専門性についてインタビューする形で進めた。10月～1月に計6回実施した。

なぜ冒険遊び場づくりに関わるようになったかの、背景を含めて聞いていくことで、それぞれのゲストの「冒険遊び場づくり観」が浮き彫りになった。少々荒っぽいかもしいないが、まとめると『楽しさに依る「遊び」を体験し、人（他者）と出会うことで自分の価値観を鍛え、よりよく（楽しく、あるがままに）生きる・暮らすことができるように社会に働きかける営み』と言えよう。

各回の対話から見えたキーワード

回	ゲスト	タイトル	対話から見えたキーワード
1	古賀久貴	クラフト～参加のデザインの魅力 と 冒険遊び場づくり	自分の価値観で勝負する
2	齋藤啓子	世田谷のまちづくり と 冒険遊び場づくり	自治ー自分が自分になるためのプロセス
3	関戸博樹	まちの中での福祉 と 冒険遊び場づくり	地域・生活圏・参加型ーみんなで考える
4	石田太介	若者の社会参加 と 冒険遊び場づくり	終わらない取り組み
5	佐々木健二	マネジメント と 冒険遊び場づくり	「かっこいい！」を育てる場
6	竹内のり子	アート と 冒険遊び場づくり	“本当に楽しい”の共有

02 PlayDay の試行もしくは実施に向けた研究・調整 <普及啓発><調査計画> A, C

■事業目的

「遊びあふれるまち」の実現に向け、「遊びの価値・大切さ・楽しさ」について、社会的に注目を集める取り組みを行う。

■実施体制

担当理事（嶋村、関戸ひ、石田、梶木）を中心に検討を進めた。



遊び あふれる まちへ！
日本冒険遊び場づくり協会

■活動概要と成果

『全国の冒険遊び場づくりグループをはじめ関係諸団体と連携をはかり、「遊びにあふれた1日（PlayDay）」を試行する、もしくはそのための研究や調整を進める』という目標に向け、意見交換と、イギリスで実施されている「プレイデー」に関する情報収集を行った。

結果、協会として子どもの遊びに関わる関係諸団体を巻き込んだ全国キャンペーンを展開するのは時期尚早と判断した。その理由として、目的実現のためには全国の子どもの遊びに関する関係団体との長期的な取り組みが必要不可欠であり、協会には現時点以上に全国の関係諸団体とのネットワークの強化が必要であると考えた。

そこで今後、協会としてまず取り組むことは、冒険遊び場づくりグループ同士のつながりを強化すること、さらに相互的支援や行政への要望を挙げることの大切さを提示することだと考える。

そのために理事や地域運営委員が、各地に点在する冒険遊び場同士のネットワークや交流を深める支援をしていきたい。地域ごとの冒険遊び場の交流から、冒険遊び場の同時開催（例えば『都立公園を使うプレーパークが、「都民の日（10/1）」に一斉開催を企画する』、『関西地域の冒険遊び場の一斉開催』）などの呼びかけにつながっていくのではないだろうか。

その段階を経て、各団体の協会（全国の冒険遊び場づくりのネットワーク）へのつながりが強化され、各地域での関係諸団体とつながっていく土台が培われていくと思われる。

03 相談・支援プログラムのパッケージ化 <相談支援><人材育成><調査計画>A, B

■事業目的

いきいきとした冒険遊び場づくりが各地域で展開されるよう、各地の活動団体等が研修・講座等に取り組もうと考えた際に、アクセスのしやすい状況をつくり出す。その手段として、これまで協会が実施してきたプログラムを提供可能なパッケージとしてまとめることを目指した。また、活動団体が研修・講座等の実施にあたり活動の課題を整理し、今後を見据えた取り組みができるようになるのを促せる形にすることを目指した。

■実施体制

担当理事（古賀・竹内・根本）を中心に検討を進めた。

■活動概要と成果

- ・理事会も含めた議論の結果、当初7通りほどにまとめるとしていた「パッケージ化」については、無理に標準化を進めるよりも協会が取り組んできた支援実績についてその内容を提示していく方向とした。
- ・具体的なプログラム内容に入る前に確認の必要な原則については、整理のうえWeb上に掲載した。
- ・活動団体が課題や今後を見据えて研修・講座を実施できるようにヒアリングシートを改良した。
- ・過去に実施した支援内容の提示法は、今後検討が必要。活動団体を講座等で直接支援したものに限らず、遊育プログラムや「N遊S」上の蓄積も含めて考える必要がある。（これまでは年次レポート上で一覧と傾向を掲載したのみ）



04 会員参画編集部によるN遊Sの制作 <普及啓発><調査計画><組織運営> A

■事業目的

会員対象の会員対象刊行物として、会員の「いま必要なこと」「いまおもしろいこと」をテーマに、各号特集スタイルで編集し、年4回発行する。会員から編集委員を公募し、公募編集委員は記事の作成に参加するだけでなく、編集作業も行なう。また、地方運営委員にも特集記事の取材や調査の参加を呼びかけ、N遊Sの編集体験を共有する機会を広げる。

■実施体制

会員からの公募編集委員（小林中、加藤寛子、谷居早智世、高子美典）と、担当理事（斎藤、関戸ま、古賀）で編集会議を行ない、編集作業も担った。5地域運営委員にも取材に参加してもらい、各地ならではの情報発信コーナーを新設した。紙面のレイアウト、イラスト作成などについても会員に呼びかけ、毎号メンバーを増やし延べ34名で作成した。

■活動概要と成果

2008年度の特徴のひとつは、明快な特集テーマを設けたことにある。9月の「次世代育成支援行動計画特集」では、「遊びで社会をかえるジャンプしよう！」というキャッチフレーズをつくって、強いメッセージの発信を意図した。11月の「助成金攻略特集」では、「助成金GET必笑ガイド!!」と題し、助成金申請上のポイントを解説し、主な助成金2つの特徴を比較して、申請書類作成へのアドバイスを掲載した。3月の「大村璋子さん追悼特集」では全ページで、縁ある人からの寄稿や足跡の解説を載せた。

またその他の参加型企画として、冒険遊び場づくりをめぐる対話の会での理事の話的部分的に紹介する「理事に聞く！」コーナー、各地からのナマの声を届ける「遊Tube」を設け、地域運営委員から記事を寄せてもらった。これまで続けてきた各地の冒険遊び場づくりの紹介は「地域発!!」というコーナーで継続させた。

新しい編集体制の特徴のふたつめは、読み手にとって魅力的な表現になっているかどうかを「ことば」と「視覚」という2つの表現からチェックして構成したことである。公募会員の技量を、最大限にいかすことができたといえる。会員読者からは概ね好評であった。

今後の課題は、会員に直接届くメディアとしての機能、ホームページのブログやメールマガジンなどwebメディアとの役割分担などを検討することである。

05 プレーカーを通じた移動型遊び場づくりの調査研究 <調査計画><普及啓発><相談支援> A, C

■事業目的

2006年度「冒険遊び場づくりキャラバン」、2007年度「プレーカーを活用した冒険遊び場づくりモデル事業」、この2つの事業の成果をもとに、乳幼児の親子がより気軽に外遊びができるよう、プレーキットの改良開発と移動型遊び場づくりの運営等についてさらに調査研究する。関心がある人が最初の一步を踏み出すきっかけとなるような報告書を作成する。

■実施体制

担当理事（古賀・嶋村・竹内・根本）。子育て・遊び場づくりに関係する4名の外部専門家とで事業検討委員会を設置。建築・子育てに関係する3名の外部専門家とでツール改良開発委員会を設置。



遊び あふれる まちへ！
日本冒険遊び場づくり協会

■活動概要と成果

当初企画では、移動型遊び場づくりについて網羅的に調査し、ネットワークを形成する予定であったが、事業検討委員会において検討した結果、乳幼児期の親子の外遊びを推進するための取り組みとして焦点を絞って事業を進めた。

事例調査では、2006～2007年度の実施団体への追跡調査ならびに移動型遊び場づくりの先進事例の調査を行った。

事業検討委員会、ツール改良開発委員会では、各委員がそれぞれの専門的知見をもとに意見・視点を提供し、移動型遊び場づくりの取り組み方や留意すべきポイントなどに深まりが得られた。特に大きな成果は、全国に広がる地域子育て支援拠点（つどいの広場）における事業展開を想定し、その運営者が取り組みやすいように報告書『Let's try PLAYKIT outside! 移動型遊び場づくりのススメもっと外で遊ぼうヨ!』に実施の要点をとりまとめたことと、この冊子を全国約500カ所の地域子育て支援拠点に配布したことである。

また「乳幼児期から野外で遊ぶ大切さ」、「移動型遊び場づくりのススメその1, 2」の3回連続の学習会を実施した。

今後は、さらに学習会等の機会を通じて報告書を配布し、地域子育て支援拠点の運営者等への発信を行う予定である。全国の冒険遊び場づくり活動と地域子育て支援拠点等が連携し、乳幼児期の親子が地域において屋外で遊ぶ機会がつけられることが期待される。

06 遊びに関わる大人の育成 <人材育成> B

■事業目的

冒険遊び場づくりの理念の普及も実践も、その人材の有無が決め手となる。最前線で子どもと関わるプレーリーダーはもちろん、運営に当たる市民、サポートする機関や行政の人。また、冒険遊び場だけではない、子どもの遊びに関わるさまざまな立場の大人たちがどのような『子ども観』『遊び観』を持って遊び場を作り、運営し、子どもと対応しようとするのか。豊かな遊び環境の創成のために欠かせない、こうした人材の育成を図る。

■実施体制

担当理事（天野）が目的に応じて会員等からパートナーを定め取り組んだ。

■活動概要と成果

今年度は、他団体と連携しながら、主にプレーリーダーの育成に関する取り組みをおこなった。

1. 大正大学のカリキュラム内に「日本冒険遊び場づくり協会認定プレーリーダー養成課程（大学での正式名称：アーバン福祉学科のびのびこどもプロダクトコース・子ども遊び創造サブコース）」を創設した（課程のスタートは2009年度より）。冒険遊び場の常駐プレーリーダーとして活動できる人材の育成を目的とした日本で初めての大学の4年制のコースであり、その可能性を最大限求めていく。
2. プレーパークせたがやが取り組んだ「全国拡大プレーリーダー会」を協会が共催した（2009年 2/16～18）。全国で活動するプレーリーダーに呼掛けたところ34名が参加し、プレーリーダーの職能やプレーリーダーとしての自らのあり方について、価値観や情報の交換、ディスカッションを行い、その意識を深めた。



07 国への政策提言に向けた研究 <調査計画><普及啓発><相談支援> C

■事業目的

次世代育成対策推進法における多くの「市町村後期行動計画」（平成22年度から5年間）にプレーパーク・冒険遊び場の施策に関する記載を増やすために、各地域の冒険遊び場づくり活動団体による各市町村への施策提案を支援する。

■実施体制

担当理事（佐々木、梶木、三浦）で政策提言活動につかう提言書の基礎資料の収集、構成案のとりまとめを行い、理事会に提案するなどして進めた。

■活動概要と成果

次世代育成対策推進法の市町村の後期行動計画策定の進め方を分析すると、当会の関わり方としては、協会会員が市町村の策定委員となる方法と、市町村等が市民にパブリックコメントを求めた際に、協会としての提言書を示す方法が考えられる。

尚、前者の方法については、既に策定委員となっている会員もいることがわかったが、更に増やすことは市町村の計画策定スケジュール上からみて困難であった。

したがって、後者のパブリックコメント用の提言書を作る方法を中心に組み、その成果物については策定委員となった会員にも活用してもらうこととした。

現在までの活動としては、以下の通りである。

- ・次世代育成対策推進法などの法令関係の把握を行って、自主学習のために抜粋資料を作成した。
- ・N遊S9月号で、次世代育成支援行動計画特集記事「遊びで社会をかえるジャンプしよう！」を掲載した。
- ・パブリックコメント等に活用する提言書について、読み手の想定及び提言書の構成案を作成した。読み手としては、行政関係者のほかに企業も想定することとした。

今後、提言書の構成についてさらに検討を加えて、具体的に提言書の作成に着手することとしたい。

08 無料講師派遣による冒険遊び場づくり応援事業 A, B

■事業目的

1. 子どもの遊び・冒険遊び場づくり活動・プレーリーダー等の重要性をより広く社会に伝えていくこと 2. 協会の団体正会員の冒険遊び場づくり活動を支援すること 3. 協会の団体正会員を増加させることにより、協会の財政基盤を強化すること を目的とした。

■実施体制

協会理事、地域運営委員を講師として7つの依頼団体へ派遣した。

■活動概要と成果

実施団体からは、協会の取り組みに理解をいただき、参加費等から寄付を寄せてもらい、共に支え合い進めていく協働を進めることができた。

<実施団体（実施順）> さいたま冒険遊び・たねの会（埼玉県さいたま市）、みんなで遊び場つくり会（大阪府阪南市）、もりzooプレーパーク（兵庫県神戸市）、のだ遊ぼうよの会（千葉県野田市）、埼玉冒険遊び場づくり連絡会（埼玉県）、こどものあそびば（千葉県千葉市）、北区で子どもの遊ぶ場をつくる会（東京都北区）



収支計算書

自 2008年 4月 1日
至 2009年 3月 31日 (単位:円)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
【事業費】		【管理費】	
給料 手当(事業)	222,220	給料 手当	4,647,380
事業推進事務局費	427,500	法定福利費	612,517
外注費	0	福利厚生費	26,075
謝金(事業)	1,969,530	通信費	135,310
ボランティア経費	0	印刷製本費	9,740
通信費(事業)	0	荷造 運賃	265,162
印刷製本費(事業)	880,146	保険料	23,720
荷造 運賃(事業)	231,000	水道光熱費	180,000
旅費交通費(事業)	278,820	旅費交通費	264,769
会議費(事業)	71,140	会議費	311
備品消耗品費(事業)	99,298	備品消耗品費	115,845
支払手数料(事業)	2,330	租税 公課	4,200
その他 事業費	11,860	支払手数料	8,295
雑費(事業)	0	一括償却費	42,216
商品 仕入	113,440	その他管理経費	4,500
棚卸資産増減額	394,050	特別損失	316,496
		雑費	4,497
事業費 計	4,701,334	管理費 計	6,661,033
		経常収入 計	8,478,326
		支出の部合計	11,362,367
		収入の部合計	8,478,326
当期収支差額	▲ 2,884,041	次期繰越収支差額	1,858,705
		前期繰越収支差額	4,742,746
		TOTAL	13,221,072
		TOTAL	13,221,072

貸借対照表

2009年 3月 31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部		正味財産の部	
科目	金額	科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】		【正味財産】	
(現金・預金)		未払金	932,400	正味 財産	1,858,705
現金	117,386	前受金	0	(うち当期正味財産増加額)	▲ 2,884,041
普通預金	1,193,473	預り金	130,780	正味財産の部合計	1,858,705
郵便振替	2,267,396	仮受金	0		
未収金	6,000	【固定負債】			
(棚卸資産)		長期借入金	1,180,000		
棚卸資産	506,550	負債の部合計	2,243,180		
(その他流動資産)					
前払費用	0				
立替金	6,080				
仮払金	5,000				
流動資産合計	4,101,885				
【固定資産】					
(有形固定資産)					
一括償却資産	0				
固定資産合計	0				
資産の部合計	4,101,885	負債・正味財産の部合計	4,101,885		

財産目録

2009年 3月 31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【固定資産】	
(現金・預金)		(有形固定資産)	
現金	117,386	一括償却資産	0
普通預金	1,193,473		
郵便振替	2,267,396		
(売上債権)			
未収金	6,000		
(棚卸資産)			
販売用資産	506,550		
(その他流動資産)			
前払費用	0		
立替金	6,080		
仮払金	5,000		
流動資産合計	4,101,885	固定資産合計	0
資産の部 合計	4,101,885	負債の部 合計	2,243,180
		正味財産	1,858,705



第2号議案 2009年度 協会ミッションと新体制について

報告事項

会員の皆様には、2009年3月に「**会員・賛助会員・購読会員の皆様へ 会費の値上げのお願い**」というお手紙を差し上げました。

「協会が存続の危機です！ 日本冒険遊び場づくり協会の経営は、今、とても苦しい状況にあります。」という突然の言葉に、びっくりされたことと思います。

また、会費値上げについて、なぜ「案」の段階で会員の意見を聞かなかったのか、会費値上げをした後に協会を再建に向かわせる展望があるのか、などと疑問や憤りを感じられた方も多いと思います。

尚、2008年6月に監事から提示された「監査検討書」を振り返ってみますと、会計監査においては資金確保等の財政基盤の強化の取組みの必要性について、事業監査においては運営基盤の強化の取組みの必要性について指摘を受けておりました、これらの指摘についての改善努力は、まだまだ不十分であるといわざるを得ません。

理事一同は、こうした状況を招いてしまったことへのお叱りを真摯に受け止めますと共に、みんなで考えていく協会にするために、皆様のお知恵などもいただきながら、協会の再建に取り組みたいと考えています。

そこで、本議案では、協会の経営状況と会費値上げのお願いをしなければならなかった背景をできるだけ丁寧に説明し、合わせて協会のミッションの再確認と新体制における取組み方針について報告させていただきます。

尚、本議案は、報告議案ではありますが、総会終了後の企画において、**(仮題)「聞こう！ 語ろう！ 共有しよう！」**というタイトルで、今後の冒険遊び場づくりや協会のあり方について皆様と意見交換をして共に考える場を用意しておりますので、よろしくお願ひします。(会員以外の参加歓迎、参加費無料)

【会費改定等の内容 (2009年2月1日理事会による)】

個人会員会費改定	旧) 5,000円	⇒	新) 8,000円	(3,000円増)
団体会員会費改定	旧) 10,000円	⇒	新) 15,000円	(5,000円増)
購読会員の廃止	旧) 2,000円	⇒	新) 廃止	

【会費収入目標額】 約400万円 (予算では430万円、事務局員1名確保が目標)

主な支出の内容

- ・事務局の維持管理に係る経費(事務局員給与・電気、インターネット、電話代等)
- ・事業実施運営に係る経費(印刷・郵送料・その他事務消耗品等)



1：協会の財政状況と会費値上げの背景について

1) 協会財政の現状把握と「見える化」

協会は、その前身である『冒険遊び場情報室』を発展的解消し、2003年に発足し第一回総会時正会員：116名（個人88名、団体28名 2004.5.29）、手許金262万円、事務局員2名体制でスタートしました。財政は、毎年度会費収入では追いつかず、主に手許金の繰り越し、助成金、委託金に頼る構造でした。最近の財政状況について把握をし、「見える化」に取り組みましたので説明いたします。

2) 事務局経費に使えない助成金・受託金と伸び悩む会費収入・一般収入

表1をみますと、2007年度は、全国集会等で金額の大きな助成金を得て活動し、結果として寄付金、参加費等の多くの一般収入を集め、期末の繰越金として470万円を確保することができました。

2008年度は「遊び あふれる まちへ」のミッションを設定して、理事会構成を関東、関西、東北のバランスをとり、事務局2名体制（日数的には1.5人）と新設の地域委員の連携により、全国への活動展開を目指して取り組んできました。ただし、図1のように予算段階から財政が厳しいことは認識されており、財政補強を目的に14名の理事が私募債として総額118万円を預託して、再建に取り組んできました。ところが、2008年度は全国への活動展開の仕込みの時期にあたり、思うように寄付金、販売費等の一般収入を増やすことができず、結果として期末の繰越金を180万円まで減らしてしまいました。では、どうしてこのようなことになるのでしょうか。

協会は、全国の冒険遊び場活動団体及び個人を支援する中間支援組織ですので、役割を果たすためには「事務局の維持管理等にかかる経費（管理費）」を確保しなければなりません。一方、大きな収入として期待される助成金、受託金は、事業活動費として使うためのものであり、多くの場合、管理費として使えないルールとなっています。したがって、必要な管理費を確保するには、「会費及び一般収入」を増やす必要があります。過去4年間を振り返ってみると、「会費収入＋一般収入＞管理費」となった年度は全国集会を行った2007年度だけでしたから、構造的な問題点があるといわざるを得ません。

表1：協会会計（決算）の推移 （※09年度は予算案、10年度は予想） （単位：万円）

費目		05年度	06年度	07年度	08年度	09年度※	10年度※
収入の部	会費	140	140	110	190	430	450
	一般収入	240	220	910	240	290	520
	助成・受託	740	1,100	1,840	420	20	450
	前期繰越	390	200	280	470	180	280
	(TOTAL)	1,510	1,660	3,140	1,320	920	1,700
支出の部	事業費	690	1,000	2,070	470	170	500
	管理費	620	390	600	670	450	820
	次期繰越	200	280	470	180	280	380
	(TOTAL)	1,510	1,660	3,140	1,320	920	1,700
主な行事				全国集会			全国集会
一般収入＝寄付金＋参加費＋販売費＋広告収入＋その他 事業費＝事業給与＋謝金＋仕入れ＋事業委託費＋その他 繰越金＝期末（期首）現在の正味財産（＝資産－負債）				受託・助成収入＝受託事業収入＋助成金収入 管理費＝給料手当＋法定福利費＋その他 （端数処理は、万円単位を四捨五入し、合計金額優先とした）			



3) 会費値上げ等へのご理解のお願い

このままでは協会の存続に関わる問題であるとの判断により、今回のお願いをするに至りました。協会が期待されている役割を担っていくためには、少なくとも事務局職員 1 名を確保することが不可欠です。もちろん会費収入以外にも寄付金、参加費、販売費、広告収入等の一般収入を増やしていく努力を続けていきます。その上で、目指す基本はその年度の会費収入で単年度運営できる体制づくりと考へて、会費収入の目標を約 400 万円として、会費値上げをお願いしました。何卒、ご理解をお願いいたします。

尚、今回合わせて購読会員を廃止いたしますが、昨年度まで購読会員であった皆様には、ご賢察のもと何とぞご理解賜り、新しい展開へご参画頂きたくお願い申し上げます。

表 2：会員数の推移及び会費収入の目論見

	正会員数		賛助会員数		購読 会員数	会費収入合計（全員納入の場合）	
	個人	団体	個人	団体		改定前	改定後
発足当初 2002 年	88	28	—	—	—		
2009 年 4 月現在	225	79	9	3	70 (廃止)	約 217 万円	310 万円

【会費改定等】 個人会員 旧) 5,000 円 ⇒ 新) 8,000 円、 団体会員 旧) 10,000 円 ⇒ 新) 15,000 円、
購読会員 旧) 2,000 円 ⇒ 新) 廃止 ◇ 昨年までの未納であった会費がすべて納付された場合は、会費収入は概ね 400 万円となる。

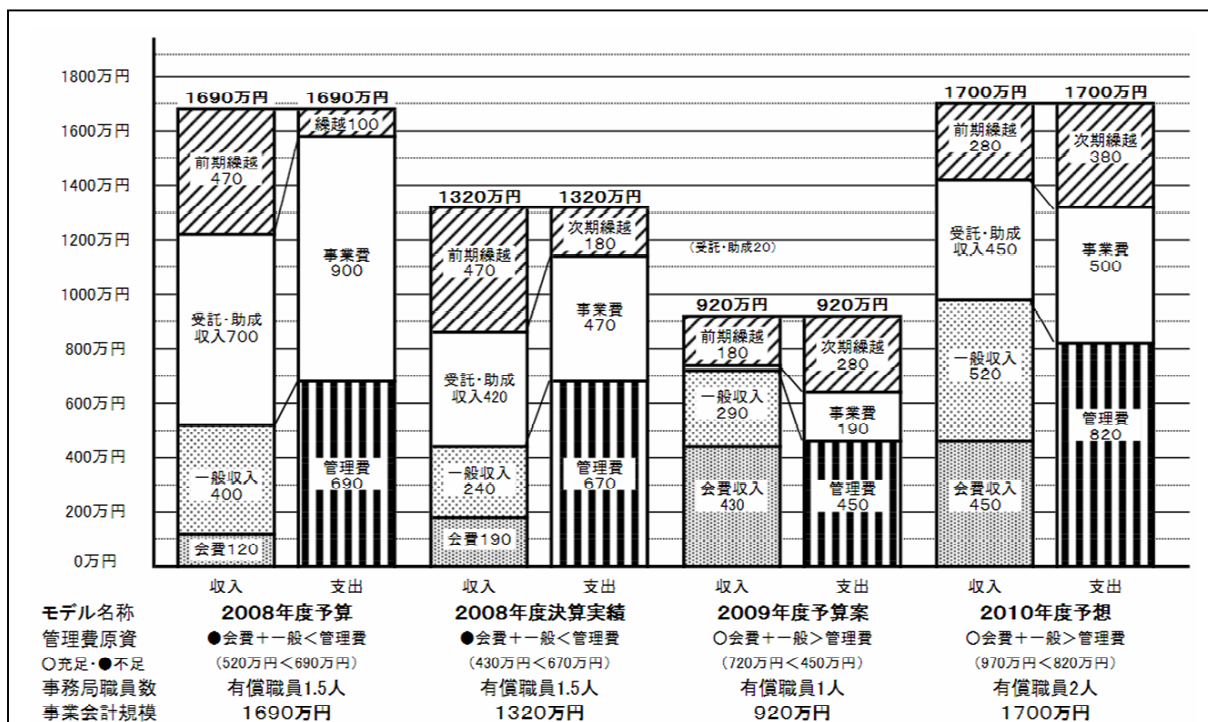


図 1: 協会の2008年度収支の実態と2009年度以降シミュレーション

【図の解説】 2009 年度予算案では、会費値上げを行ったことにより、事務局職員 1 名を確保した上で、「○会費収入+一般収入>管理費」となっており、財政的に健全な形となっています。また、予算案では一般収入で賄う目論見の事業費について、2009 年度の助成金等収入を得て、振り替えることができれば、更に健全な方向に向かいます。ただし、会費値上げの影響により、会員数が減った場合は、「●会費収入+一般収入<管理費」と逆転する可能性があり、会員の皆様のご理解を得ることが不可欠です。

一方、もしも会費の値上げをしなかった場合については、2010 年に予定されている全国集会（3 年毎）の下準備をしなければならないにもかかわらず、2009 年度は事務局職員を 1 名も配置できませんでした。



資料2：協会のミッションと新体制について

私たちは、冒険遊び場を含む子どもの遊び場は、土地に根を下ろし育つ植物であり、原っぱのようなのだと捉えています。一方、子どもたちは、住んでいる近くから離れられないので、すべての子どもたちが遊べるようになるには、日本全国のそれぞれの地域に遊び場が広がり、根付いていくことが必要です。だからこそ、協会のミッションを「**遊び あふれる まちへ**」としています。

約30年前に日本の地に初めて根付いた冒険遊び場が、今では全国で230を超える冒険遊び場づくりの取組みに広がったことは大変すばらしいことです。

それらは、「**遊び**」という種は一つですが、その土地々々の気候や土壌や文化によって様々な育ち方をしています。悩みも苦労も欲しい情報も、それぞれに違います。中には、よいアイデアで、グリーンと育った遊び場もあります。

私たちは、遊び場づくりの中で直面する悩みや苦労はそれぞれの地域で違っていても、違う地域の遊び場づくりの仲間同士がつながることができたなら、何か新たな一歩ができるはずと考えています。

さらに、多くの仲間が繋がったならば、遊び場づくりの気候や土壌を変える一歩を、共に踏み出すことができると考えています。

さて、遊び場づくりを植物や原っぱに例えましたが、協会を例えると何でしょう。

<風> ある人は、原っぱの上を吹く風に例えました。自分の地域には「遊び場づくりの種」がないのかと探している人のまわりに風が吹いたら、もともと近くあった種が運ばれてきた。これからの育ち方に悩んでしまった原っぱの周りの地域を風が吹きぬけたら、よどんでいた空気が動いて、「やってみよう！」というさわやかな気持ちになった。

<ミツバチ> ある人は、花と花を飛び回るミツバチに例えました。ある地域のミツバチが、「こちらの遊び場ではこんな楽しいことやっているよ」と8の字サインを送り、他の地域のミツバチも8の字サインでどんどん伝えていったら、全国の遊び場に「楽しい」が伝わった。

私たちは、こんな活動がしたいと考えています。

私たちは、日本全国の地域に根付き主体的に活動する冒険遊び場づくりをつなぐ、ネットワーク型の中間支援組織となることを目指しています。



【ミッション】

「遊び あふれる まちへ」 地域で 子どもたちが 自由に 遊び 育つ 社会の実現

【活動指針】 (活動指針に、具体的な活動イメージを付け加えました。)

1. 遊び観・子ども観を世に問いかける。

子どもの遊びが 人間にとって いかにか大切か
冒険遊び場の 果たす 役割は何か
大人は 子どもの 遊びに どうつきあったらいいか

2. 冒険遊び場づくりの魅力をアピールする

冒険遊び場づくりが どんなに 楽しいか
どこで どんな多様な 活動が 進められているか
住民と 行政の 協働関係などから どんな成果が 得られているか

3. 活動の展開ノウハウを開発する

活動開始に 必要な 基礎的条件
活動で 起きる 諸課題への 対処
子どもの 遊びと 向き合う 大人の 教育

【2009 年度の重点事業方針】

A. 中間支援組織としての体制の構築

2008 年度から全国に配置した地域運営委員と理事会及び事務局とが連携することにより、全国に根づいて活動する会員をつなぐ、ネットワーク型の中間支援組織としての体制を構築します。特に、財政的な理由によりスリム化した事務局を支える仕組みをつくりま

B. 地域ごとの交流強化による会員相互の顔が見える関係づくりの推進

全国で活動する会員が地域ごとに集まり、連携した活動を計画・実施する中で、会員相互の顔が見える関係づくりを推進します。冒険遊び場づくりに対する地域の関心を高め、会員増加につながる地域自主企画による行事等の開催を支援します。

C. 対象を明確にした普及・啓発活動の推進

冒険遊び場づくりに未だ気づいていない人に対して、対象を明確にした普及・啓発活動を推進します。冒険遊び場づくりが、子どもの居場所づくりにとどまらず、まちづくりの中で様々な役割を果たすことをアピールして、地域の様々な方から冒険遊び場づくりへのご理解を得られるよう取り組みます。



第3号議案 2009年度事業計画および予算

報告事項

日本冒険遊び場づくり協会では、2009年度の3つの重点事業方針（詳細は第2号議案参照）にあわせて、9つの事業を計画しています。3つの重点事業方針と各事業の関連について、以下の表にまとめるとともに、各事業計画および2009年度収支予算について報告いたします。

事業 No.	2009年度 事業名	重点事業方針		
		A	B	C
		中間支援組織としての体制の構築	地域ごとの交流強化による会員相互の顔が見える関係の推進	ターゲットを明確にした普及・啓発活動の推進
1	中間支援組織としての財政基盤強化と事務局体制再構築	○		
2	インターネットを活用した情報受発信方法の整理と構築	○	○	○
3	国への政策提言に向けた研究と行動	○		○
4	会員参加型の相談支援体制の構築	○	○	
5	子どもの遊びに関わる大人の育成			○
6	全国規模で子どもの遊びを考えるキャンペーンの企画と実施・支援		○	○
7	会員参画編集部によるN遊Sの制作		○	○
8	冒険遊び場づくりをめぐる対話の会の実施		○	
9	講師派遣無料キャンペーン事業の実施	○	○	

01 中間支援組織としての財政基盤強化と事務局体制再構築

- 事業目的：全国を対象とした中間支援組織である本法人の活動の活性化に求められる財政基盤と、ネットワーク型活動体として各地から参加できるスリムな事務局体制を確立する。
 - 事業内容：本年度は試行による模索の年と位置づけ、関係省庁、機関並びに企業への働きかけ、説得力ある支援要請資料を充実させる。また新たな分野からの会員獲得活動を行う。四半期ごとに財政ならびに事務局体制の成果と課題を吟味し、公開して、次四半期の補正を行う。
 - 達成目標：説得力ある支援要請資料の整備。当面持続できる最低限の財政構造と事務局体制の発見。
 - 実施体制：大村を中心に2008年度拡大事務局会メンバーでスタート。状況に応じて補充する。
 - スケジュール：
 - 第1四半期 全体企画。当面の支援要請資料整備。新分野からの会員獲得活動開始。
 - 第2四半期 財政・事務局体制検証。関係省庁、機関ならびに企業への働きかけ。
 - 第3四半期 財政・事務局体制検証。関係省庁、機関ならびに企業への働きかけ。
 - 第4四半期 財政・事務局体制検証。関係省庁、機関ならびに企業への働きかけ。
- 支援要請資料整備（2009年度成果として）
- 事業部門：＜総務＞＜普及啓発＞



02 インターネットを活用した情報発信方法の整理と構築

- 事業目的： インターネットを活用した情報発信や、双方向の情報提供の可能性を整理・検討し、協会の広報手段のひとつとして構築する。
- 事業内容： インターネットで検索して子どもの育ちや遊びに関して情報収集する一般的の閲覧者・行政や企業の担当者、協会会員相互の情報交流等、対象別による情報の内容や手段を整理する。特に、会員に対しては、情報提供としてメールマガジン、メーリングリスト、ブログ、などについて、担当理事を中心に会員に呼びかけてコンテンツ制作の体制をつくり、試行～実運用を行う。
- 達成目標： 整理された手段のうち、会員向け、活動団体向けものは年内に運用を開始する。関心のある人、行政・企業向けものは運用準備に取り組み、整った段階で運用開始する。
- 実施体制： 石田、嶋村、古賀、梶木、広報担当理事（斎藤、関戸まゆみ）、他数名によるプロジェクトチームが、N遊S編集部と連携して検討、実施する。
- スケジュール： 6～7月 発信する情報の洗い出し・整理・区分け、情報発信手段の検討
8月～ 試行開始 10月～ 実運用開始
- 事業部門： <普及啓発>

03 国への政策提言に向けた研究と行動

- 事業目的： 次世代育成対策推進法に基づき国内各市町村が策定する「後期行動計画」（平成22年度から5年間）に、「冒険遊び場」や「プレーパーク」に関する施策の記載を増やすために、会員や冒険遊び場づくり活動団体による各地域の市町村への施策提案を支援する。あわせて、各地の企業に対しても、上記提案資料を活用して「冒険遊び場」や「プレーパーク」に関する説明を行い、冒険遊び場づくり活動に対する理解を求める。
- 事業内容： 1) 市町村や企業に対するパブリックコメント等として提示する提言書を作成する。
2) 提言書の作成過程において会員への説明と意見交換のできる場を設定する。
3) 会員を通じ提言書を市町村及び企業へ発送し、必要に応じ説明を行う。
- 達成目標： 多くの「市町村後期行動計画」に「冒険遊び場」や「プレーパーク」に関する施策が記載される。
- 実施体制： 担当理事（佐々木、梶木、三浦）が中心となり提言書の構成や内容を固め、提言書の最終的なデザインや印刷については、作成支援メンバーを募って実施する。
- スケジュール： 6月まで 提言書原案の作成。会員に提示して意見交換を行い、内容等の向上を図る。
8月まで 提言書の第1版を完成。会員向けの説明会を行う。その後、各地域の会員が市町村や企業に対して提言書の発送および説明を行う。
- 事業部門： <調査計画> <普及啓発> <相談支援>



04 会員参加型の相談支援体制の構築

- 事業目的：・冒険遊び場づくりについて関心を持った人、活動に関わる人が「さらに知りたい」「どのように取り組めばよいか考えたい」と思った時に、相談できる場をつくることで、地域の人々が取り組む冒険遊び場づくり活動を後方から支援する体制をつくる。
 - ・ひとりの疑問の発信を起点に、多くの人々が考え、力をつけていく仕組みをつくる。
- 事業内容：事務局に電話・メール等で寄せられる問い合わせ・相談について、内容に応じて理事、地域運営委員、活動に取り組んでいる会員に積極的につなげながら、課題を乗り越えるために一緒に知恵を出し合える形を整えていく。相談を通して、地域内での交流が生まれることを促す。また、その中で見えてくる知見について、「N遊S」他、「事業02」を受けた受発信手段も利用して、会員間の共有財産を築いていくことをめざす。
- 達成目標：協会に寄せられた一つひとつの相談に取り組む過程において、上記体制の構築。
- 実施体制：担当理事（根本、天野、佐々木）および事務局
- スケジュール：年度当初より、事務局に寄せられた相談に具体的にに対応するなかで推進。相談実績をもとに、年数回、担当者間で整理・検討会議を実施。
- 事業部門：<相談支援><人材育成>

05 子どもの遊びに関わる大人の育成

- 事業目的：冒険遊び場づくりの理念の普及も実践も、その人材の有無が決め手となる。プレーリーダーはもちろん運営に当たる市民、サポートする機関や行政の人、子どもの遊びに関わる様々な立場の大人たちなど、その立場の違いに関わらず、大人が子どもに対して考えるべき遊びの環境に対する思いと共に、自分の社会的立場だからこそ可能となる子どもの遊びに対する支援を考え、実践する。このような人材の育成に努め、輩出することが、子どもの遊び環境を大きく変えていくことに繋がっていく。
- 事業内容：① 2009年度4月に「プレーリーダー養成コース」（正式名称：人間学部アーバン福祉学科のびのび子どもプロダクトコース）をスタートさせた大正大学との連携を意識し、さまざまな展開方法を検討する。②「事故のシミュレーション」「場の魅力の引きだす」「プレーリーダーと世話人」「自由としつけ」「自分の責任で自由に遊ぶことと自己責任」「遊びが社会を変える」など、今までの蓄積の中から考えられる内容で、現場にとってはチクリと来るテーマを考え、単発の公開講座を開催する。
- 達成目標：・常設の冒険遊び場を担うプレーリーダーの創出。
 - ・運営に当たる市民の、コミュニティーコーディネーションスキルの充実。
 - ・官民協働をイメージして計画できる行政職員の輩出。
- 実施体制：天野、竹内、嶋村
- スケジュール：2009年度秋頃、大正大学と連携して公開講座を開催
- 事業部門：<人材育成><普及啓発>



06 全国規模で子どもの遊びを考えるキャンペーンの企画と実施・支援

- 事業目的：社会において、子どもが遊ぶことへの理解が深まることと、冒険遊び場への認知が向上することを旨として、各地の冒険遊び場活動がキャンペーンを展開できるような枠組みを作り、地域・地方での交流・発信するための援助を行う。その積み重ねにより、当協会および会員が、将来、「プレイデー」のような「全国規模で子どもの遊びを考えるキャンペーン」に向けて他分野・他業種の人々と手を組むための土台を作る。
- 事業内容：1) 「冒険遊び場一斉開催の日」の実施など、地域ごとに冒険遊び場活動に取り組む人たちが交流し、社会への話題作りを行うための支援・共催などを行う。
2) 実施例から報告書を作成し、全国の冒険遊び場活動団体および行政・近接分野の関連機関などへの発信を行う。
3) 全国規模のキャンペーンを展開するため、子どもの遊びに関わる他分野・他業種の人々との交流を深める機会を積極的に持つ。
- 達成目標：1) すでに企画検討段階にある地域での実施を支援し、ノウハウを蓄積する。
2) 中間支援組織としての話題づくりの方法を確立する。
3) 冒険遊び場に関係する人（特に、理事や地域運営委員）が、子どもの遊びに関わる他分野・他業種の人たちと、「全国規模で子どもの遊びを考えるキャンペーン」の可能性について話し、連携できる関係を結べるようになる。
- 実施体制：担当理事（嶋村・石田・関戸（ひ））が中心となる実行委員形式。
- スケジュール：～6月 事業の概略原案を作成し、会員に提示して意見交換の実施
～8月 呼びかけ用の情報冊子等の作成。計画段階の地域に対して支援方策検討
～年度末 報告書の作成
- 事業部門：＜調査計画＞＜普及啓発＞＜相談支援＞

07 会員参画編集部によるN遊Sの制作

- 事業目的：「遊びあふれるまちへ！」に向け、全国の冒険遊び場づくりに関心のある会員を対象に、広がりを持ったテーマで冒険遊び場づくりについて「知りたい情報」「必要な情報」を発信する。
- 事業内容：①N遊S編集に地域運営委員や会員の参画を得ることにより、会員活動相互の活性化と実効性のある情報提供を行なう。
②毎号の特集企画、取材、原稿執筆、編集作業、レイアウトなどそれぞれの得意分野を活かした作業分担を話し合い、参加者に力を発揮してもらう。
③会員にとって身近でわかりやすい情報の特集・連載・紙面を工夫する。
- 達成目標：2009年度編集部は、N遊S39～42号の4号分を発行する。
- 実施体制：担当理事（齋藤、関戸ま）ほか、編集部員の会員からの公募、地域運営委員による企画・取材・執筆など、会員参画を推進して編集にあたる。
- スケジュール：発行・5月末、8月末、11月末、2月末 各号編集会議予定
- 事業部門：＜普及啓発＞＜調査計画＞＜組織運営＞



08 冒険遊び場づくりをめぐる対話の会の実施

- 事業目的：冒険遊び場づくりの「契機ならびに展開の多様性」の共有が目的である。
2008年度は、各個人が冒険遊び場づくりに関心を持つようになった背景、活動の契機と継続のモチベーションの多様性を知ることができた。今年度はそれに加えて、各人の専門領域等における観点から、冒険遊び場づくりの展開の多様性を見出す。
- 事業内容：2008年度に対話を行った理事には、事業目的を補完するアンケート等を行う。今年度は、「冒険遊び場づくり活動の社会展開」をテーマに掲げて3名のゲスト（理事）とホストが対話を行う。さらに次年度に小冊子とすることを展望して、2ヶ年度の成果を踏まえた取りまとめ会議を行う。
- 達成目標：
 - ・各回の記録を記事にまとめN遊Sに掲載する。
 - ・冒険遊び場づくりの「契機ならびに展開の多様性」を共有する仮説モデルをつくる。
- 実施体制：担当理事（古賀・菅）、正会員（加藤寛子、谷居早智世、渡辺龍彦）
- スケジュール：実施3回（予定ゲスト：梶木、根本、三浦）、取りまとめ会議3回。
- 事業部門：＜普及啓発＞＜調査計画＞

09 講師派遣無料キャンペーン事業の実施

- 事業目的：①子どもの遊び・冒険遊び場づくり活動・プレーリーダー等の重要性を、より広く社会に伝えていくこと ②協会の団体正会員の冒険遊び場づくり活動を支援すること ③協会の団体正会員を増加させることにより、協会の財政基盤を強化すること
- 事業内容：目的の達成のため、理事・地域運営委員ならびに会員から講師を募り、協会からキャンペーン事業について一斉に広報し、連絡調整をする。全国各地の団体会員の要望に応じて、講師が無料で講演会等を行うことにより、参加費等の一部を寄付として受領し、協会の財政基盤強化につなげる。
- 達成目標：2008年度のシステムを改善して運用するとともに、講師や実施期間を拡大、地域の人的交流を促して、全15回の開催をめざす。
- 実施体制：担当理事（天野・石田・梶木・関戸ま）
- スケジュール：期間を決めて広報し、実施する
- 事業部門：＜普及啓発＞＜組織運営＞



遊び あふれる まちへ！
日本冒険遊び場づくり協会

日本冒険遊び場づくり協会 2009年度収支予算書

収入の部

単位：千円

	組織運営 (管理を含む)	相談支援 会員参加型の相談 支援体制の構築 + 受託事業の実施	普及啓発						調査計画 国への政策提言に 向けた研究と行動	合計
			子どもの遊びに関わ る大人の育成	インターネットを活用 した情報発信方法 の整理と構築	講師派遣無料キャン ペーン事業の実施	全国規模で子どもの遊 びを考えるキャンペーン の企画と実施・支援	冒険遊び場づくりを めぐる対話の会の実 施	会員参画編集部に よるN遊Sの制作		
会費収入	4,300									4,300
寄付金収入	500				384					884
受託事業収入		200								200
参加費収入			272					30		302
販売等収入	800				60	25			200	1,085
助成金収入										0
広告収入										0
その他収入	600									600
収入合計	6,200	200	272	0	444	25	30	0	200	7,371
前期繰越										1,858
TOTAL										9,229

支出の部

単位：千円

	組織運営 (管理を含む)	相談支援 会員参加型の相談 支援体制の構築 + 受託事業の実施	普及啓発						調査計画 国への政策提言に 向けた研究と行動	合計
			子どもの遊びに関わ る大人の育成	インターネットを活用 した情報発信方法 の整理と構築	講師派遣無料キャン ペーン事業の実施	全国規模で子どもの遊 びを考えるキャンペーン の企画と実施・支援	冒険遊び場づくりを めぐる対話の会の実 施	会員参画編集部に よるN遊Sの制作		
(事業費)										
給料手当て										0
謝金	50	120	60							230
仕入れ	300									300
事業委託費										0
その他事業費	200	100	10	60	25	150	30	584	190	1,349
事業費合計	550	220	70	60	25	150	30	584	190	1,879
(管理費)										0
給料手当て	2,640									2,640
法定福利費	317									317
その他管理費	1,600									1,600
管理費合計	4,557									4,557
支出合計	5,107	220	70	60	25	150	30	584	190	6,436
次期繰越										2,793
TOTAL										9,229

当期収支差額	1,093	▲ 20	202	▲ 60	419	▲ 125	0	▲ 584	10	935
--------	-------	------	-----	------	-----	-------	---	-------	----	-----

※給与は事務局員一人(@16000*12ヶ月)と事務局補佐(@60000*12ヶ月)として計上
 ※法定福利費は給与手当ての12%を計上
 ※管理費の「その他管理費」は理事が前年度よりも頻繁に集まることを予定して多めに計上